

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援☆放課後等デイサービスAQUA		R 7 年 5 月 21日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11		欠員がいる場合、管理者へ報告したり、その日に利用可能な児をゼックアップする。 施設自体が広いので、療育室だけでなく場所を分けて活動することが出来ていると思う。また、発作時などには別室に移動して対応出来る。	快適に過ごせる空間を確保している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	1	休憩時間帯は、声をかけ合い安全に配慮している。 基本、一対一以上で支援することが出来る。また、発作時などは2人体制でケアが出来ている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	1	段差はなく、玄関前は屋根が覆いており雨の日でも濡れることのない構造となっている。また、風邪症状などある際は個室にて対応可能で、発作時等の対応については表やメモがあるため、情報伝達しやすい環境は整っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		整理整頓に努めている。毎朝、夕の全体掃除の他に、ポイントで昼にも清掃を行っている。おもちゃやフロアの消毒はしっかり行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		施設も広く、部屋も幾つかあるため、個別対応は可能。実際に発作時、発熱等、クーリング等のために個別対応を行うことが出来ている。	リハ室・静養室整備。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	2	システムにて全職員に研修開催を周知し参加を毎回促している。	毎月のスタッフミーティングにて法人内研修を行っている。その中で、既定の研修以外に希望が上がった研修会を取り入れている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		保護者向けの評価は表での把握に加えて、各イベントの際はアンケートをとり、より保護者の意見を取り入れる機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		上司に相談しやすい環境である。内容によってはミーティングや終礼時に話し合う機会を設けられている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	5		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		新人研修に限らず、医療ケア・重心対応に関するマニュアルを作成中。全スタッフが均一な技術で関わる環境を作っている。	新人研修の内容に症例検討会も含めていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		他職種連携をはかり、各職種からの視点を持つての記録や終礼時に各児のアセスメントを共有することで、より深い把握ができています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11		療養の時点での周知がなされている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	1		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		休みや雇用形態により個別支援計画更新の共有時にいない職員に対して、印刷し、回覧した際にはチェックできるものがあれば、確実に共有はできてくる。	計画書全般、カルテ内に情報は保管されており、全スタッフ閲覧可能。周知する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		具体的支援内容の設定ができてのに加え、毎月その内容にあったアセスメントを相談員に報告書を通してお伝え出来ている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		保育士がメインとなりプログラム立案をしてくれ、具体的内容に関しては全体でより深く話し合うことが出来ている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		毎週違う活動を設定し、子どもたちが楽しめるように活動を行いながら改善を行っている。屋内外活動どちらも取り入れることが出来ている。また、季節にあった行事を取り入れることにより、四季の移り変わりやイベントへの興味関心を広げている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11		朝の会やイベントなど集団で活動する時間を設けて、フリーの時間では子どもひとりひとりに寄り添った個別支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11		朝礼時に活動の周知が行われている。また、活動によっては企画書を用いて、取り組むことが出来る。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11		終礼時に、その日の利用児の活動やアセスメント報告ができています。また、その場に居ないスタッフにも申送り出来るよう、業務日誌への記載も行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11		地域交流に関しては、他事業所との交流や、近くの訪問看護ステーションなどに出かける機会もあり、比較的地域交流を持つ機会が多い。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11		会議までに事業所内での情報共有、確認を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11		ハロウィン等のイベントについても交流をはかることが出来る。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	11			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	11		利用児の中で保育所等を利用されている場合がある。近くの事業所との合同イベントを行い、その際に交流をはかることが出来る。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		巡回時に保護者と積極的に情報共有をしている。巡回時だけでなく、システムを通して記録、写真でもの様子を分かりやすくお伝えしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	4	同じ悩みを持つ御家族同士の交流の機会を持つことは出来る。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		家族からの質問等は自分で判断せず、持ち帰り、スタッフと情報を共有するようになっている。SNS、連絡帳、電話、対面などの場面でも相談しやすい環境を作っており、ご相談がある際には職員間で情報共有を行いながら、全体で解決策を考える支援をおこなっている。	

保 護 者 へ の 説 明 等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	1	イベントの際に保護者様の茶話会を行っている。その際に兄弟児の方も招待し、交流を行っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11		地域住民参加可能なイベントの開催を行い、イベントの際にはパンフレット配布も行っている。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		各委員会を設置し、委員長を主として毎月ミーティングの際、情報交換、訓練等をスタッフ間で行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1	地域消防署にも協力してもらい、定期的に避難訓練を行えている。	消防訓練は年2回行っており、合わせて防災訓練・防犯訓練も行っている。BCPの策定内容はマニュアル一覧にて常時確認できる状況。周知する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11		服薬、予防接種などの情報はスタッフ間でしっかり共有し、発作については看護師と直ぐに連携できる体制をとることが出来ている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11		アレルギーがあるお子様に対しては一覧を作り、直ぐに確認できる場所に掲示してある。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		毎日、ヒヤリハットの確認を行い、再発防止に向け報告書の作成も行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11			
	53	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。	11		月一スタッフミーティングでの周知をおこなっている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11			